山添町長と
みんな・みえる・みらいトーク
Vol.02

新しい移住・定住のカタチ

与謝野町に移住（Uターンを含む）された5人の方をゲストに迎え、「新しい移住・定住のカタチ」をテーマに開催した山添町長とみんな・みえる・みらいトーク（以下、「町長トーク」）。5人が与謝野町に移住したきっかけは何だったのか。また、さらに移住者を増やしていくために必要な取り組み、受け入れる地域に必要なことは何なのか。移住者の視点で与謝野町の魅力と課題、そして未来について語り合った内容をお届けします。

問　総務課 ☎43-9010

町 Youtube チャンネルで全編をご覧いただけます

【テーマ①】地域へのなじみ方・とけ込み方

（困ったこと、良かった方法など）

（高瀬） 一番の壁は「言葉」でした。「だで」「しゃっても」「いかめえ」「だんにゃあ」――。わたしが就職したときは、自分のおじいちゃんおばあちゃん世代が多く、こってこての加悦谷弁ばかりで、一番忘れられないのが「おみゃー、何年生まれでぃやー」と聞かれたときです。相手は普通に聞いているつもりでも「このおっちゃん、怒っているのか？」と思い、聞かれている内容が頭に入ってこないくらい壁を感じました。

（原） 引越しをした際、あいさつに伺ったときに「隣組に加入したいです」と言いました。今住んでいる地域の人口が少ないため、隣組に加入しないと皆さんと関係を持つことができないと思い、夫婦で話し合い加入しました。

移住して1年後、夫に消防団のお誘いがきました。皆さんから「入ったら大変やで」と言われていましたが、夫なりに考えて今では消防団員としてUターンで帰ってきましたが、最初は新しい土地に行くくらい、とけ込みにくい雰囲気がありました。一つは、親が世帯主として隣組や地域の行事に参加していたので、「青木さんとこの息子」くらいの認識はされていましたが、こちらからアプローチをすることがなかなかできにくかったです。かや山の家の代表になる前までは、地域との接点は少なかったですが、今では「山の家の青木」と、地域の方から認識してもらっていする「ホップレンジャー」に登録して、移住前に参加しました。移住してからも何度かホップレンジャーに参加する中で、与謝野ホップや与謝野ビールに関係する方々とつながり、一緒にイベントを企画して開催しました。自分から調べて行動を起こしたことによってつながりができたので、よりとけ込ませてもらったと思っています。

（江種） やっぱり移動販売の「エグカフェ」をやっていたことは大きかったです。地域のお祭りやイベントのほか、京丹後市や宮津市にも行かせてもらい、出店者やお店に来てくれる方と会話をしていく中でつながりができ、ネットワークが広がっていきました。

（青木） 12年間、与謝野町を離れています。

（山添町長） 青木さんのお気持ちはよくわかります。わたしの場合は28歳のときに帰ってきました。昔から地域の祭りが好きだったので、積極的に祭りに参加したり、同級生のネットワークも使いながら、もう一度関係性を温めていきました。わたし自身も菊地さんのように、自分からアクションを起こしていくことで、地域の皆さんとの接点を作ることができたと思っています。

今では実家に帰って話すと、自然に「だで」とか加悦谷弁が出てしまう。

自分自身から行動を起こすことで、地域の方とのつながりが生まれた。

【テーマ②】移住前と移住後のギャップ

（都会と違うこと、良かった点など）

（原） 移住して3年が経過しましたが、あこがれていた塩見直紀（しおみなおき）さんの「半農半X」のようなライフスタイルには全然なっていません。半分農業で家族が食べていくためのお米や野菜を育てながら、自分の好きとして活躍しています。

（菊地） 妻の実家に来た身なので、自分の知っている方がいませんでした。移住する前に「与謝野町ってどんなところなのか」と調べたときに、始めに目にしたのが「与謝野ホップ」でした。わたしはすごくビールが好きなので、ホップ栽培をお手伝

町長トークの会場となった「かやの山の家」からの風景。眼下に棚田が広がり、夕方には美しい夕日を見ることができる。風の音、野鳥のさえずり、地元の食材を使った食事、ゆっくりと流れる時間――。都会では体感できない時間を過ごすことができる。

ゲスト同志のつながりもうまれた町長トーク